

町の取り組み

町では、認知症になっても、住み慣れた地域で暮らしていただけるよう取り組みを行っています。その一部を紹介します。

「認知症ケアパス・ガイドブック」を作成

町では、認知症ケアパスを作成し、「認知症かも」と感じた時から認知症の症状が進行した後の生活、家族の対応、利用できるサービス・支援などを案内しています。

新たに令和4年度、認知症ケアパスの更新と、「認知症ケアパスガイドブック」の作成を行いました。



「認知症」、「若年性認知症」の症状や基礎知識の他、本人や家族にどのような影響があるかなども掲載。読むことで認知症をより身近なものとして考えるきっかけにもなります。

「認知症サポーター養成講座」

認知症の人やその家族を地域で支える取り組みの一環として、小中学校、地域や企業で認知症サポーター養成講座を開催し、県内では、39万6,866人のサポーターが誕生しています(令和4年6月末現在)。この数は、人口比では日本一です！

認知症に関わる活動をした人へ、町社会福祉協議会へお問い合わせください。

「認知症サポーターアクティブチーム」の養成

認知症に関するより深い知識や技術を習得するための研修(ステップアップ講座)を修了し、認知症の人やその家族を支える活動を積極的にやっている団体を、県が「認知症サポーターアクティブチーム」に認定しています。

令和4年度には、益城病院が運営する「オレンジサロン」が、「認知症サポーターアクティブチーム」に認定されました。

オレンジサロンの活動風景



今後もオレンジサロンに続くアクティブチームが誕生するよう、認知症サポーター養成講座やステップアップ講座を行い、認知症サポーター活動の活性化、認知症になっても地域でよりよく生活するための環境整備を進めていきます。

「アルツハイマー月間」周知啓発活動を紹介

「アルツハイマー月間」である9月1日～30日、町図書館(交流情報センターミナテラス)で、認知症関連書籍やガイドブックなどの認知症に関する情報を発信しています。ぜひ一度お立ち寄りください。

また、町内小中学校の図書室でも、認知症関連書籍や認知症をテーマとしたドラマや映画作品を紹介する取り組みを通して、子どもたちにも認知症に興味関心をもってもらえる機会づくりを行っています。



この記事に対する問い合わせ先

福祉課 包括支援係
☎ 234・6113